

静岡県議会議員

# 山崎しんのすけ通信

浜松市と静岡県を結ぶ!! 若きカジュアル政治マガジン

vol.22

2020年8月発行

## 「リニア問題」は 急がば回れ!

リスク  
コミュニケーションを  
尽くすべし



6月26日、ついに川勝平太静岡県知事と金子慎JR東海社長とのトップ会談が実現しました。終始穏やかな様子で会談は進み、あつという間の1時間半でしたが、その成果はどうだったのか。また、リニア中央新幹線南アルプストンネル工事の今後の行方について解説します。

### トップ会談の成果は?



リニア問題を所管する危機管理課長と環境委員長の四本議員と対談

率直に言えば、成果は特にありませんでした。JR東海社長からは、トンネル本体工事に先立つヤード(作業基地)工事の許可を求め、知事は条例の手続きに則って、それは認め



トップ会談にのぞむ川勝知事と金子社長

られないと答える。これまでのJR東海と静岡県とのやり取りを、トップ同士が繰り返しただけの形に終わりました。ただ、JR東海からすれば、「静岡県のせいで2027年の開業予定に間に合わなくなった」というストーリーを全国に発信できたという意味では、成果はあったのかもしれない。

### 本当に静岡県が足を引っ張っているのか?

全く違います。ヤード工事を認めることができないのは、法と条例に基づく環境アセスメントの手続きの一環として、取るべき「環境保全措置」等が盛り込まれた「自然環境保全協定」が結ばれていないからです。では、その原因は何か。それは、JR東海が必要

な資料をなかなか提出しないという消極姿勢にあると考えます。「失われる大井川の水を全量戻す」ことの表明も、静岡県の意見から4年半もの年月がかかりました。これは、私が静岡県民だから言っているのではなく、現在国交省が主導して設置された有識者会議の専門家からも指摘されていることです。

また、実は静岡県以外の工区(例えば長野県や岐阜県)でも、工事に遅れが生じています。全体としても非常に難しい工事であるのに、さらにその上をいく世界最難関の工事が南アルプスの地下1000メートルを貫通させる本トンネル工事ですから、環境破壊だけでなく事故や災害等も懸念されます。この現実をしっかり向き合い、JR東海として対策を真摯に考える姿勢が、工事を着実に向けた一番の近道といえます。

### 今後の展開は?

まずは、上述の国の有識者会

議での議論を見守る必要があります。その上で、そこで出された方向性をもとに国交省がJR東海に指導を行い、「自然環境保全計画書」案を作成。その案を、県が設置している有識者会議で協議または修正して「自然環境保全協定」を締結する。これらのプロセスに沿って、粛々と作業を進めていくこととなります。



### リスクコミュニケーション なくして問題解決なし

ただ、その時に大切なのは、リスクコミュニケーション(科学的根拠に基づいた対話)を尽くすことです。この問題を一番心配している大井川流域の皆様に見れば、JR東海からの適切な情報や信頼関係がないと、リスクを大きく見積もってしまいます。逆にJR東海にしてみると、現場や地域に寄り添って行動しないと、認識が足りず、リスクの見落としや過小評価が生じやすくなってしまいます。その差を縮める作業が、まさにリスクコミュニケーションなのです。焦る気持ちは分かりますが、今のまま強引に工事を進めては、後世に禍根を残すことになるでしょう。

急がば回れ!今後の議論が、科学的な対話に基づいてなされることを期待しています。

## パワー全開!!

### FKC(ふじのくに県民クラブ)政調会活動

今年度より、会派「ふじのくに」県民クラブ(略してFKC)の政調会長を引き受けることになりました。政調会のミッションは、政策実現を通じて、地域社会の課題解決と県民幸福度の向上に貢献することです。そのため今年度は、「政策力・実現力・発信力」という3つの力を磨き上げ、「意味のある、甲斐のある」活動を遂行することをビジョンと定めています。

また、新しいことにも積極的にチャレンジするよう心がけています!例えば、県民ニーズと根拠に基づいた政策立案を行うための「会派独自のWEBリサーチ」や「まちかどヒアリング」の実施、政策研究だけでなく自らが率先垂範する「FKCエコアクション」の第1弾としてのオリジナルエコバッグの製作、さらに、県政や

会派活動を分かりやすく発信するショートムービー「FKC Movie」の展開など、パワー全開です。県民の皆様とともに政策を作り上げ、実現し、還元する。政調会だからではなく、議員として当たり前の職責を確実に果たせるよう、これからも頑張ってみよう!



## コロナ禍だからできる 生徒に寄り添った活動を 「東中スマイリーTシャツ」贈呈!!

新型コロナウイルスの影響を受け、学校現場も過去にない対応を迫られています。特に、長引いた休校期間の穴埋めのため、夏休みを短縮する等の措置を多くの学校で採られています。エアコンの未設置校もあり、熱中症等が心配です。そこで、私の母校でもある浜松市立東部中学校では、PTAと同窓会が連携し、登下校時や授業中でも着用できるような服装規定を柔軟に見直した上で、涼しいドライ素材の「東中スマイリーTシャツ」を製作し、先日は贈呈式も行いました。

このTシャツには、熱中症対策のほかに狙いがあります。それは、コロナ禍で生活リズムが崩れたり、学校での対人関係に悩んだりする生徒が増える恐れがある中、メンタルヘルスを支援することです。そのため、背中のデザインには、東中の校訓である「和」という字の中にスマイリーマークを入れ、さらにメッセージとして、「あなたは笑顔がよく似合う!」という意味の英文を添えました。

みんながみんな励まされ、あつて、そういう雰囲気共鳴して学校を明るくしていく。このTシャツを着て、快適かつ温かな気持ちで学校生活を送ってもらえれば嬉しいです。



本気が  
違う!!



これからの、この事態が確実に収束し、そして新常态と言われる時代の中でも多くの県民が幸せを感じられるよう、個人としても党派としても尽くしてまいりますので、引き続き、ご意見等お寄せ下さいますようお願い致します。



コロナ禍の  
半年間の  
活動を振り返る!

# 「新型コロナ対策の軌跡と成果」



**実現!**      **拡充!!**      **さらに!!!**

1	<b>医療提供体制の構築</b> 感染拡大を想定し、患者を受け入れる病床の確保を要望しました。	重症患者の入院受入可能病床を46床確保。人工呼吸器なども順次導入。	一般医療機関を含めて200床の病床と、軽症者受入施設として静岡市内の宿泊施設155室を確保。	6月末時点において、入院患者受入病床を、今後の患者の増加を見込んで400床確保する方針へ。
2	<b>感染予防対策の徹底</b> マスクや消毒用アルコール、防護服などの資機材を確保し、必要とする施設等への速やかな供給を要望しました。	県備蓄マスクを市町経路で社会福祉施設等に配布。在宅での医療的ケア児に対しては、エタノールを優先的に供給。	6月補正では、さらに医療用マスク172万枚、不織布マスク591万枚、ガウン21万枚などを手当て。その多くが県内調達できる見込み。	
3	<b>PCR検査体制の充実</b> 県内どこでも迅速に検査ができるようにするため、PCR検査体制の拡充を要望しました。	PCR検査が、平日72件まで測定可能に。	5月18日までに、PCR検査体制を600検体に増強。さらに、県内全域において「地域外来・検査センター」の設置も検討。	6月25日現在、「地域外来・検査センター」は県内10箇所に設置。PCR検査も、県内1日最大904件が可能に。
4	<b>大胆な事業継続支援</b> 中小企業者等の事業が継続できるよう、惜しみない資金繰りを要望しました。	県制度融資枠を500億円、融資限度額も8000万円に拡大。信用保証料の事業者負担もゼロにし、資金繰りを後押し。	5月14日の時点で、リーマンショック時の規模をはるかに超え、融資枠は4800億円まで拡充。	6月補正において、融資枠を4800億円から1兆4,534億円に大幅拡大。
5	<b>県独自の協力金支給</b> 休業要請を行うのであれば、県としても財政出動をするよう提言しました。	4/25～5/6までの期間、感染拡大防止に協力頂いた遊興施設等に対する協力金制度を創設し、支給を開始。	続く5/7～5/17の期間も、第2弾として対象施設を絞る中で制度を継続。第1弾で70億円、第2弾で10億円弱の支給を実施。	
6	<b>確実な情報発信</b> SNSやLINEを活用した「プッシュ型」広報の展開を提言しました。	LINEアカウントの開設をはじめ、Twitter、Facebook、防災アプリ等「プッシュ型」の情報発信を強化。	6月29日現在、LINEアカウントの登録者は14,403人にのぼり、感染者情報などを迅速にお届け中。	
7	<b>県内経済の流通促進</b> 県内経済を刺激するため、県産品購入等を促進する取り組みを提言しました。	地産地消「バイ・シズオカ」を推進へ。県産品や県内資源の新たな発見・消費に繋がることが期待。	本県だけでなく、山梨県と連携した「バイ・ふじのくに」へと発展。	県内観光促進キャンペーンにより、宿泊料金の半額を割引くクーポン等を展開。
8	<b>議員報酬の削減</b> 議員報酬削減分を原資とした基金を創設し、医療従事者への支援を共同提案しました。	全会派の合意により、議員報酬および政務活動費の1割を10ヶ月間削減し、新設した基金に繰り入れ。その分は、医療従事者の危険手当としてすぐさま支給。		
9	<b>児童生徒の学力保障</b> 異例の長期休校で戸惑う児童生徒のために、学力保障とメンタルヘルスカケアを要望しました。	全校において、学習支援を行うことができるよう、学習支援員を週8時間、12週間配置可能に。	6月補正予算において、全校に学習支援員を週25時間、30週間配置できるように拡充。	
10	<b>新常态への挑戦支援</b> 「新しい生活様式」に対応した新たなビジネスモデルの推進支援を要望しました。	IT等を活用した配達代行サービスなど、新サービスの展開や新たな業態への転換に挑戦する企業を支援する補助金が創設。	補助金に対する引き合いが多く、6月補正で3億円を追加計上し、さらなる民間提案を後押し。	

**Pick Up**  
インターンで政治を体感してみませんか?  
大学生の時に、議員インターンシップを経験したことが、私の政治を志した原点でした。百聞は一見に如かず。百見は一試に如かず。一緒に政治の現場で活動してみませんか?新しい発見が、きっとあなたを待っています。議員インターンに興味のある方、そうした経験をお子さんに積ませてみたい方、まずはご一報をお寄せください!

**山崎しんのすけ事務所**  
〒430-0852 浜松市中区領家1-11-21  
TEL.053-461-1020 FAX.053-465-6982  
<http://www.shin-sk.net/>



▲オフィシャルサイトはこちら

SNSでも最新情報を公開中!! ぜひフォローをお願いします!!



**山崎真之輔  
プロフィール**

- 38歳三児の父親
- 浜松北高等学校、名古屋大学法学部卒業
- 元衆議院議員 鈴木康友(現浜松市長)秘書
- 浜松市議会議員(2期6年間) ■ 静岡県議会議員(3期目)
- 所属党派: ふじのくに県民クラブ(政策調査会長)
- 所属委員会: 建設委員会  
情報通信技術利活用特別委員会 副委員長
- 役職: 一般社団法人静岡県eスポーツ連合 顧問  
浜松市立東部中学校同窓会 会長  
公益社団法人浜松青年会議所 副理事長  
浜松市空手道連盟 顧問
- 趣味/スポーツ全般、日本舞踊(花柳流)  
読書、カラオケ、ボードゲーム  
eスポーツ

